

いよいよ打ち上げ! 県民衛星「すいせん」



今年いよいよ打ち上げられる
福井県民衛星「すいせん」
杉本知事と県民衛星プロジェクト
に関わるお二人が、本県の宇宙産業
の可能性について語り合いました。

なかむら ひろかず
中村 博一さん
福井県民衛星技術研究組合
衛星製造グループ
セーレン株式会社 研究員

やまにし こうすけ
山面 康介さん
福井県民衛星技術研究組合
衛星データ活用グループ
株式会社ネステイ 研究員

福井から宇宙へ!

福井県民衛星プロジェクト
について教えてください。

知事 福井の技術力を生かして新しい産業を創出するため、県内企業と県民衛星(県民衛星)を打ち上げるプロジェクトです。今年4月から9月の間に、カザフスタンのバイコヌール宇宙基地から打ち上げる予定です。企業と自治体が協力して人工衛星を打ち上げるのは全国初の取り組みです。2016年に、福井県民衛星技術研究組合を立ち上げ、県民衛星の製造や衛星データを利用するためのシステム開発を進めてきました。

中村 福井県民衛星技術研究組合には、衛星製造グループと衛星データ活用グループがあり、私は衛星製造グループで仕事をしています。お持ちした模型(上写真中央)は実際の半分の大きさです。実際は縦横60センチ、高さ80センチ、重さ100キロとなり、人工衛星のなかでは非常に小さいサイズになります。

しかし、地球上の自動車を判別できるほど高性能のカメラを搭載する予定であり、撮った画像データを地球に送ることができます。山面 衛星データ活用グループでは、データの活用方法の検討や利用システムの開発を行っています。



中村 博一さん

未知の世界と無限の可能性

福井県民衛星プロジェクトのやりがいを教えてください。

山面 これまで自分が触れていたことなかった技術に触れることができるのは大きな魅力の一つです。また、県民衛星という名前のとおり、県民全体の役に立つ仕事であるというスケールの大きさにも魅力を感じています。

中村 プロジェクトを通じて、宇宙開発における日本のトッププレイヤーの方々との交流しながら仕事ができるのはとても刺激的です。宇宙産業はまだ成長の初期段階で未知の部分も多く、無限の可能性を秘めています。



山面 康介さん

期待高まる県内の宇宙産業

県民衛星の打ち上げに向けて、作業はどれくらい進んでいるのですか。

中村 ハード面では、3月中旬の完成を目指して、いろいろな試験を繰り返して行っており、計画的に作業を続けています。山面 ソフト面では、衛星データを利用するための画像利用システムの試作版が完成しています。現在、県がモデルユーザーの立場から試作版の評価を行っています。その評価を反映して、3月中旬にシステムを完成させる予定です。今後も実際の利用者からの意見を反映させて、システムを改良していきます。

知事 県では県民衛星以外の人工衛星も作っています。例えば、



福井県知事 杉本 達治



真空状態で熱への強さを試験する設備



宇宙フェス IN ふくい

宇宙産業に関するイベントも開催されましたね。

知事 昨年6月、県民衛星プロジェクトを進めていく意気込みを県内外に見せようと、「宇宙技術および科学の国際シンポジウム」(ISTS)を開催しました。併せて、宇宙を実感してもらうイベント「宇宙フェス IN ふくい」も開き、多くの県民の皆さんにご参加いただきました。

また、11月には、県民衛星の「すいせん」という名前を公募で選びました。1344件の応募があり、県民の皆さんの関心や期待の高まりを強く感じました。県民衛星の完成時には、見学会を開催しますので、ぜひお越しただきたいと思っています。

福井を宇宙産業の一大拠点に!

これから福井の宇宙産業が新たなステージに進もうとしています。皆さんの抱負を聞かせてください。

中村 まずはしっかりと県民



県民衛星名称発表会

衛星を作り上げ、打ち上げを成功させたいです。昨年は2基の人工衛星を打ち上げ、国際宇宙ステーションから宇宙空間へ放出されました。また、今年にはガンダム衛星の打ち上げも控えています。これらのプロジェクトの成功を着実に積み上げて、福井が日本の宇宙産業の中心になるよう努力していきます。

福井県から全国の宇宙産業を盛り上げていきたいですね。最後に知事の抱負をお願いします。

知事 福井県を宇宙産業の一大拠点にしていくことはとても大事だと思います。福井県民衛星技術研究組合の皆さんに、これからも県内の宇宙産業をリードしていただきたいと思っています。そして宇宙分野に限らず、福井の子どもたちに、人類の発展のため、未知の世界に挑戦してもらおう、そういった県づくりを進めていきたいと思っています。